

## 会 議 録

会議の名称	第4回行田市補助金等調査委員会
開催日時	平成27年11月5日(木) 開会；午後1時30分・閉会；午後4時30分
開催場所	行田市郷土博物館 2階 会議室
出席者(委員) 氏 名	秋山義継会長、吉田幸一委員、小川栄一委員、有田親史委員、 矢田千賀子委員、江黒早苗委員
欠席者(委員) 氏 名	なし
事務局	財政課：横田課長、近藤主幹、川上主査、高澤主事
会議内容	・補助金等の各課ヒアリング
会議資料	(資料名・概要等) ・ヒアリング対象補助金一覧
その他必要 事項	傍聴者 なし

事務局	<p><b>1 開会</b></p> <p><b>2 議事</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議の公開、非公開の取扱いについては、個人情報を取扱うことがないことから、原則公開とする。</li> <li>また、会議録についても、委員名を明記した上で要点筆記とし、市政情報コーナー及び行田市のホームページにおいて公開する。</li> </ul>
秋山会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず始めに高齢者福祉課から説明を求める。</li> </ul>
秋山会長	<p style="text-align: center;"><b>老人クラブ補助金（高齢者福祉課）</b></p> <p style="text-align: center;"><b>老人クラブ連合会補助金（高齢者福祉課）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーの高齢化ということで、次の担い手がおらず、単位老人クラブが減少しているということによろしいか。</li> </ul>
夏目課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こちらからは継続してお願いしているところである。また、担い手がないのと、若い世代の会員がなかなか入会しないという話は聞いている。</li> </ul>
秋山会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他市町村と補助金の比較をしていただいたが、行田市は他の市町村と比べて費用対効果は十分あるということによいか。</li> </ul>
夏目課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国からの基準額が下がっている傾向にあるので、だんだん減少していくのはやむを得ないところである。現在、71の単位クラブがあるが、活動の内容が活発なところとそうでないところの温度差がある。</li> </ul>
秋山会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老人クラブの平均年齢はどうか。</li> </ul>
夏目課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そこまでは調べていないが、後期高齢者が多い。</li> </ul>
吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の中で、平成26年度末ではクラブ名が73あるが、補助金の</li> </ul>

夏目課長	<p>金額が良いとか悪いとかでなくて、平成 26 年度各クラブの事業費決算額と平成 26 年度補助金等の交付確定額において、相当開きがあるものがある。この差は、どのように捉えているのか。</p> <p>・吉田委員指摘のとおり、単位クラブ毎に補助率が様々である。</p> <p>例えば、堤根樋上長寿会の一番大きな事業は、日帰りの旅行であるが、会員の会費を徴収して行っているため、補助金額との差が大きくなっている。</p>
吉田委員	<p>・経費の精算額の差について、市として一考を要するという指摘は今までないのか。</p>
夏目課長	<p>・確かに、補助率というのはまちまちであって、単位老人クラブの中で、会員の中の理解を得て会費を募って、旅行に行っているところもあれば、なかなかそういうのも難しくなって小規模で活動しているところもある。</p>
吉田委員	<p>・第 5 次総合振興計画の基本計画で、保健・福祉・医療をやすらぎで明記している。市民の皆さんの声を総合的に勘案して、増額を意図するわけではないが、高齢化社会が進展すると、補助金額についての議論が出てくるかと思われる。</p>
夏目課長	<p>・一人当たり 2 万円程度の老人クラブという親睦の意味で活動しているところもあるので、線引きするのは一長一短もあり難しい。</p>
小川委員	<p>・高齢者の人口増加が進む中で、単位老人クラブや会員数が減少していくということがあったが、クラブに入らないことについての何か理由があるのか。</p>

夏目課長	・勧誘はそれぞれやっているところである。チラシの雛形を作るなどのヒントは与えているが、担い手であるリーダーの受け止め方や、新規の方の勧誘で苦慮していることは伺っている。
小川委員	・新規の対象者から見ると、単位老人クラブの活動への魅力が薄れているということではないか。
夏目課長	・そういう考え方も一部成り立つのではないかとと思われる。
小川委員	・高齢者の行政範囲は幅広くて大変だとは思われる。お年寄りに対しては生きがいを見つけて、少しでも健康で長生きをして欲しいと思うが、市としての生きがい対策の考え方を伺う。
夏目課長	・老人クラブも一つの生きがい対策と考えている。介護予防という観点から、教室や講座なども実施しているが、様々な事業に積極的に参加されている方よりも、引きこもりがちな方のケアが難しいと考えている。
矢田委員	・老人クラブでなくても今は様々な講座があるが、参加を呼びかけても辞退する方は多いと思われる。様々な分野も含めて市として検討していただきたい。
江黒委員	・補助率に達していない部分は、会費で賄っているのか。
夏目課長	・メインは会員会費によってほとんど賄っている。
江黒委員	・逆に、補助率が低い方が活発に活動しているように見える。例えば、天満シルバークラブでは H26 補助率が 100%で、補助金だけである。

夏目課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員会費を徴収して補助率が低い団体は、事業を多く実施しているということと言えると思う。</li> </ul>
江黒委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形骸化しているクラブは把握しているのか。</li> </ul>
夏目課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実績報告書ではそれなりに記載がされているところではあるが、書類のみの審査では中身までは踏み込んでいないのが実態である。</li> </ul>
有田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老人クラブというのはどのように決まるのか。</li> </ul>
夏目課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会の中で、60歳以上の会員を30人以上集めた場合において、単位老人クラブとして発足できることになっている。明細を見ると30人を下回るものもあるが、近隣のクラブと統合を検討したりすれば、補助金の全体総額の減少に繋がると考える。また、人数が増えることによって活動が活性化されると考える。</li> </ul>
秋山会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化の進展により、補助のあり方を含めて、老人の価値観も相当変わってきている。リーダーの育成の問題や、統合したりすることなど、単位老人クラブの団体の活動が活発になるようなことをやっていただきたい。</li> <li>・行田市が高齢者向けの施策を打ち出すのであれば、補助金の増減のメリハリをつける必要があるのではないかと考える。</li> <li>・さらに、なぜ単位老人クラブ数が減少しているのか。また、次のリーダーの担い手がなぜいないのか、負担がかかり過ぎているのはいないか、費用面の問題はないのかといったことに対して、会員の皆様からの満足度を調査していただき、効果的な運用をお願いしたい。</li> </ul>
	<p><b>県土建建設国保組合補助金（保険年金課）</b></p>
秋山会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基準が明確になっていないということだが、他の県や市と比較して</li> </ul>

	も明確になっていないということであるか。
新井課長	<p>・以前は、市長会の方で取りまとめをしていた関係で、補助金としては、秘書課が行っていたことを考慮すると政治的な意味合いがあるかと思われる。</p> <p>・本市において国民健康保険を所管するのは保険年金課であるが、他市では、商工部門から補助金を支出しているところもある。その他にも協会健保、大きな企業だと組合健保など、それぞれ市民の方が国保の方もいればそれ以外の方もいる。そういった中で、土建国保などの建設関係のみに支出しているのが現状である。当初の経緯が不明瞭な部分があるところである。</p>
秋山会長	<p>・一人当たり 250 円という金額が社会情勢の変化の中で、少ないと思われるが、当初で政治的な駆け引きがあったのか。</p>
新井課長	<p>・不明である。</p>
秋山会長	<p>・補助金見直しシートでは、効果欄に効果が期待できるとあるが、どういったところか。</p>
新井課長	<p>・健康診査や健康増進事業に充てるという縛りをかけているので、報告書を確認すると、健康診査等の本人負担の一部となっているので、受診のしやすさといったところで役に立っているものと考えている。</p>
秋山会長	<p>・会員の方からは少ないという苦情や要望はなかったか。</p>
新井課長	<p>・市長会で行っていた頃にもやめる自治体はいくつかあったと聞いている。自治体の事務に切り替わったときにも、やめる自治体はあったと聞いている。その中で、組合の方から続けてほしいとの要望は聞い</p>

	<p>ている。金額についてはなかった。</p>
吉田委員	<p>・見直し内容の中で、平成 24 年度までは埼玉県市長会の補助事業であり、市は負担金を拠出していたが、どのくらいの金額であったか。</p>
新井課長	<p>・見直しはしていないので、一人当たり 250 円である。</p>
吉田委員	<p>・一人当たり 250 円というのはいいのか、悪いのか議論はあると思うが、組合の方から話は来ているのか。</p>
新井課長	<p>・私の記憶の範囲では、組合の役員の方で、引き続き補助の方は継続して欲しいとのお願いは受けている。金額を増額して欲しいというのを受けていない。</p>
吉田委員	<p>・この補助金を今後も続けていくのか。</p>
新井課長	<p>・継続するかというのは、なぜ交付するのかという明確な理由がないのが難点である。従前市長会で行っていたのかということをも含めて、回答が難しい。</p>
小川委員	<p>・平成 26 年度行田市被保険者がん検診推進事業決算書を参照すると、被保険者数が 1,075 人、がん検診を受診した方が 514 人というようになっているが、他市と比較してどうか。</p>
新井課長	<p>・この事業については、市町村によって補助単価だけを一人あたり 250 円と決めているのは、県の話であって、どのように使用されているかを県に照会したところ、明確な回答はなかった。行田市は健康増進事業に充てるということで、組合からは報告が上がっているところである。</p>

江黒委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他市は、似たようなことは伺っているが、詳細は伺っていない。</li> <li>・健康保険組合に加入している方はどんな方か。</li> </ul>
新井課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土木系・建設系であり、対象は行田支部であって、埼玉県土建健康保険組合は県内全部で、県内の方で職業として個人的に自営で建設業を営まれている方が主な対象である。他にも健康保険組合という形で、医師国保とか、薬剤師国保とか、税理士とか、そういった形で職業毎に健康保険組合という形で作られている。その中で、土木建設系は２つに分かれていて、補助金を交付している。</li> </ul>
江黒委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その中で２つだけに交付しているのはどうか。不公平な感覚を受ける。</li> </ul>
新井課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経緯がわからないところで、難しいところである。</li> </ul>
江黒委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も継続すべきであるのか。</li> </ul>
新井課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内市町村を見るとやめているところもあり、補助理由が明確でないことから公平性の観点から見直しをしたと伺っている。</li> </ul>
有田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 24 年度に埼玉県市長会で、補助事業を廃止した経緯は、何か。</li> </ul>
新井課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明確な理由を確認していないので回答ができない。</li> </ul>
秋山会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政治的な意味合いがあったということであるが、他の市町村も廃止しているところもあるということなので、これを継続する場合は、きちんとした根拠を整理しておく必要がある。</li> <li>・また、負担される側が、一人 250 円というジュース 2 本程度の金</li> </ul>

	<p>額で、それが果たして効果として表れているかということも吟味しなければならぬ。今後さらに検討をお願いしたい。</p>
	<p style="text-align: center;"><b>行田市母子寡婦福祉会補助金（子育て支援課）</b></p>
秋山会長	<p>・母子及び父子、寡婦家庭の福祉向上、相互親睦、情報交換あるいは、自立更生意欲の高揚とあるが、予算の一般財源の12万円のあり方はどうか。他の市町村と比較検討した場合はどうか。</p>
満井課長	<p>・他の市町村とは比較していないのが現状である。</p> <p>平成26年度の総会において、12万円は会員の皆様からは妥当であると伺っている。</p>
小川委員	<p>・行田市母子寡婦福祉会補助金で、定額補助で12万円を支出しているが、今回の収支計算書を見ると、会の方で年間の事業費が240万円くらいかかっている。事業費に対して、定額補助の12万円が少ないという意見はないのか。もっと補助金を増やして欲しいという要望はあるか。</p>
満井課長	<p>・総会で様々な役員の方と話をしたが、その中では特になかった。</p>
	<p style="text-align: center;"><b>保育協議会補助金（子育て支援課）</b></p>
矢田委員	<p>・特に、保育協議会については、密な連絡をお願いしたい。</p>
	<p style="text-align: center;"><b>ケヤキホーム運営費補助金（子育て支援課）</b></p>
矢田委員	<p>・ケヤキホームについては、15,000円が妥当かどうかはわからないが、資料を見ると、小針の家の調度品購入に使わせてもらったとあるが、また新しい年度では別のものを購入されたということであるのか。</p>

満井課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケヤキホームで考えていただいて、必要なものを買っていただく形である。</li> </ul>
矢田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この補助金を上手に使用していただけるように工夫して欲しい。</li> </ul>
有田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケヤキホーム運営費補助金について、別の支援方法を検討していただきたい。</li> </ul>
満井課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本来は、ケヤキホーム入所児童の福祉向上および処遇改善という名目の補助金なので、備品購入以外の形も検討したい。</li> </ul>
<p><b>行田市医師会交付金（保健センター）</b></p>	
秋山会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行田市医師会交付金の補助金額の 100 万円という数字の根拠は何か。</li> </ul>
森原所長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べたが、100 万円の補助金額の根拠は出てこなかった。憶測であるが、事務所を造ったときの人件費相当額が大体 100 万円に近い数値であった。これが根拠になったと思われる。</li> </ul>
秋山会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この補助金を減額しようとしたら色々問題が発生するのか。</li> </ul>
森原所長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相当発生すると思われる。医師会と市の関係は相当密接である。ただ、私は、日頃医師会に対しては、100 万円という補助金額は決して安いわけでないので、きちんと精査していただいた上で使っていただきたいと医師会長を通じて伝えている。</li> </ul>
吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行田市医師会交付金で 100 万円を交付しているが、学校の校医に対しては、別に交付しているのか。</li> </ul>

森原所長	・教育委員会から支出している。
吉田委員	・補助金の枠は決まっているのか。
森原所長	・決まっている。個人に対して支払をしておそらく1回が2万円程度であると思われる。
有田委員	・行田市医師会交付金の明細の地域医療対策費について、1,200万円と決算があるが、具体的に地域医療対策とは何か。
森原所長	・これは医師会から各診療所に対する助成である。33医療機関に対して、それぞれ割り当てて交付している。
<b>歯科医師会行田支部交付金（保健センター）</b>	
江黒委員	・歯科医師会行田支部交付金については、歯科医師会の実績報告書の明細ではざっくりしたものとなっているので明確な使い方を示してほしい。
森原所長	・次年度より対応させていただく。
<b>第二次救急輪番制病院運営事業補助金（保健センター）</b>	
	・特に質問なし。
<b>第三次救急医療運営費補助金（保健センター）</b>	
	・特に質問なし。
<b>保健センター交付補助金共通</b>	
秋山会長	・これから、医者の方の要望と住民の方の立場からの要望のマッチングを図り、今の補助金のあり方が、果たしていいかどうか、あるいは高齢化、医

	<p>療の高度化に伴って負担金が増加する可能性もあるので、補助金の金額等の検討をお願いしたい。</p> <p style="text-align: center;"><b>地区衛生協力会交付金（環境課）</b></p> <p style="text-align: center;"><b>衛生協力会連合会補助金（環境課）</b></p> <p>秋山会長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会を運営するにあたり脱退者が多くて成り立たないというNHKの報道があったが、行田市ではどうか。</li> <li>・また、地区衛生協力会と衛生協力会連合会は、交付目的の必要性和内容を見ると違いはわかるが、一緒に運営してもよいのではないかとと思われるが、区分けをしたポイントを教えて欲しい。</li> </ul> <p>小巻課長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会と同じように衛生協力会も任意団体であるので、加入は自由である。衛生協力会の主な活動は地区のごみ集積所の管理があるので、なかなか地区衛生協力会に入らないと、集積所に出せないというトラブルもある。実際に、市民の方で地区衛生協力会に加入しなくて、直接小針にある燃えるごみの小針クリーンセンター、燃えないごみの粗大ごみ処理場に搬入されている方もいる。様々な考え方はあるが、廃棄物処理法上は住民の方は、ごみを出す責務がある一方、市は出されたごみを中間処理まで運ぶ責務があるということで、責務が別れている。そういう形の中で、地域の中で衛生協力会も加入を促進しているが、加入されない方もいる。現状では、100パーセントの加入はないのが実態である。自治会に加入していないが、ごみを出したいので衛生協力会費を払っている方もいることを伺っている。</li> <li>・補助金の区分けの仕方であるが、地区衛生協力会は、地区の集積所の管理や設営などに主に使っている。連合会の方は、187地区衛生協力会長を含めた市内全体の連合会という組織に交付している。したがって、こちらの交付金は、目的として、地区に、例えば5か所ある集積所が壊れ、移設して欲しいという要望があった際に、このお金を補助にしている。あとは、皆様方が自治会費の中に衛生会費という形</li> </ul>
--	--

	<p>で組まれているが、それを合わせて新しい集積所を作ったり、移設したりというように使われている。使われ方としてはこのように色分けができています。</p>
秋山会長	<p>・資源ごみを含めて、これから益々増える可能性もある。負担という形で量の問題も発生すると思われる。隣のお宅は多く出ているが、私はごみの減量化に努めているのに、みんな一緒ですよ、と言ったことが出てくる。将来的に、利用者の皆様が負担に対して不公平感を感じる事が発生する可能性があると思われるがどう考えるか。</p>
小巻課長	<p>・小針にある燃えるごみの施設が 30 年を経過している。現在、三市の行田、鴻巣、北本で新しい施設の建設を進めている。広域化することで経費を低減できるものである。その中で、ごみ袋の有料化ということも視野に入れなければならないと考えている。</p>
小川委員	<p>・ごみ屋敷は市内で何件あるか。</p>
小巻課長	<p>・ごみ屋敷は 3 件である。</p>
秋山会長	<p>・集積場のごみの内容をみて、将来的には、行政の方が補助金を交付するわけだが、メーカーに製品価格に転嫁するような動きを行政側からも積極的に行うなどが必要ではないか。それにより、ごみの減量化や、費用の低下も行える。</p> <p>・また、以前からダイオキシン等の問題もあったが、ごみを出す側の教育も行政側の面で費用を考えないといけない時代であると思う。</p>
	<p style="text-align: center;"><b>小針地区公害監視委員会交付金（環境課）</b></p>
吉田委員	<p>・平成 26 年度小針公害監視委員会実績報告書を参照すると、地区内巡回監視として 2 月 22 日（日）に委員全員で行ったとある。活動内</p>

	<p>容には、定期的な周辺見回り活動と施設の運転管理及び調査結果の確認を補助対象事業の内容にしている。実際は、1回のみであるのか。</p>
小巻課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員が日々個別に、水路とかを確認している。ただ、最終的に全員で確認するのは1回であるという意味である。日々の中で不法投棄や草の除草の状況などを見ているが、最終確認をするということである。</li> </ul>
吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・監視委員の皆様の事業の内容で、施設の運転管理も言うのか。</li> </ul>
小巻課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メンバーは小針地区の班長、自治会長、11人の構成の農事組合長である。農事組合長は農家の水路の関係を見たりする。8月に1回会議を開いたときに、ダイオキシンの検査報告や、施設にどのくらいの量が入ってきているかを報告している。もし、施設を見学したいという要望があればその都度、対応している。</li> </ul>
<p><b>行田地区労働2団体補助金（商工観光課）</b></p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に質問なし。</li> </ul>	
<p><b>行田市中小企業退職金共済会補助金（商工観光課）</b></p>	
吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金見直しシートを見ると、補助額が共済部門は1,900万円、事業管理部門が200万円、平成27年度より共済部門への補助金を廃止し、事業管理部門のみの補助金とするとある。平成27年度の予算は300万円であるが、200万円の間違いではないか。</li> </ul>
議員課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度公益財団法人に移行したため、プロパー職員を4月から雇用しており、職員の人件費の100万円部分を管理事業費にプラスさせていただいて300万円になっている。</li> </ul>

小川委員	・法律が変わったということによいか。行田市中小企業退職金共済会の存続は必要であるのか。国の方へ加入すれば済むことではないか。
西村主幹	・行田市は掛金が 1,000 円から掛けられるが、国は 5,000 円からの掛金でないと掛けられない。そうすると、1,000 円の方も 5,000 円にしていたかなければならない。国加入となると、一旦、お金をお返しすることになるので、そうすると、一時所得のような形になり、税金の方で所得の対象になるため、今現在は移行せずに行っている。
小川委員	・解散に伴うそういった税負担は止むを得ないが、全国的に見ても市町村の中で退職金共済会が存続するのが社会ニーズなのか。
議員課長	・現状では公益財団法人に移行する際にそういった検討はされたが、将来的には国の制度と同じものであるので、そちらに移行することも検討していきたいと考えている。
有田委員	・行田市中小企業退職金共済会の加盟人数を教えてください。
議員課長	・平成 27 年 3 月現在で加盟人数は 800 人である。
	<b>商工会議所事業補助金（商工観光課）</b>
	<b>商工会事業補助金（商工観光課）</b>
小川委員	・合併して 10 年となる中で、市が関与することではない部分もあるが、行田商工会議所と南河原商工会が 1 つになれば、この補助金も一本化できるかと思う。その辺の商工会議所との存続、これらを含めた行田商工会議所への市としてのアプローチはなされているのか。
議員課長	・商工会議所と商工会、似たような組織であり、合併し補助金を一本化するのが適切などころではあるが、市としては難しいところがあ

	<p>る。そういった話が出た場合は、円滑に合併するように市としては協力したい。</p>
吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小川委員の指摘であったとおり、合併して10年経っているのだから、行田市に2つの商工会があるのは望ましくないと思う。市として合併したのだから、検討していただきたい。</li> </ul>
	<p style="text-align: center;"><b>電灯料補助金（商工観光課）</b></p>
秋山会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金額的な面での増減はどう考えているか。</li> </ul>
礒貝課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電灯料補助金以外の補助金については、行田市の商工業振興補助規程に基づいて交付をしている。電灯料については、年間電気料の80%となっているが、それ以外の補助金については予算の範囲内という規定に基づいてこの金額を補助金として交付している。</li> </ul>
秋山会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電気料の80%を補助というのは、行政側の補助となっているが、補助金について商店街としての取り決めはあるのか。</li> </ul>
礒貝課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電灯料については、商店街の皆様で調べていただいた上で補助している。</li> </ul>
秋山会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助規程の80%の根拠はどのように決めたのか。</li> </ul>
礒貝課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠は、調べてみたが不明である。</li> </ul>
有田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電灯料の補助金について、商店街は結構遅くまで街灯がついているが、開いている店がなく、歩いている人もいない状況で、商店街の振興と健全化という目的・効果がないのではないかと思います。</li> <li>・街灯がないと言って、防犯上の問題があるのであれば、他の補助金</li> </ul>

<p>議員課長</p>	<p>で出すべきではないかと考える。もっと、商店街の振興のために違う補助金に使った方が良いのではないかと考える。</p> <p>・ご指摘のとおり、元々、商店街にいらっしゃるお客様のための街路灯ということで、それに対する補助である。お客様が少ない中で、違う形での補助金も視野に入れ検討していきたい。</p> <p style="text-align: center;"><b>観光協会補助金（商工観光課）</b></p> <p>・特に質問なし。</p> <p style="text-align: center;"><b>菊花連絡協議会補助金（商工観光課）</b></p> <p>・特に質問なし。</p> <p style="text-align: center;"><b>商工観光課交付補助金共通</b></p>
<p>秋山会長</p>	<p>・補助金全般的に金額等の効果も書かれているが、この効果は高いと考えてよいか。</p>
<p>議員課長</p>	<p>・いずれも、行田の商工振興あるいは観光事業に貢献する補助金であると考えてるので、効果は高いと考えている。</p>
<p>秋山会長</p>	<p>・補助金を一本化して、検討することも大切ではないか。振興や色々な効果として謳っているが、それぞれの検証をしっかりと行い、例えば、観光収入として、あるいは税収として上がっているといったことを示すことで説得力のあるものが出てくると考える。</p> <p>・街灯の問題についても、将来的にはだんだんと LED 化をして省エネもありますし、受け入れるものは受け入れるといったことをしながら、商工会を含めた振興を行い、市全体に効果が上がったと言われる補助金の方法を検討して欲しい。</p>

	<p style="text-align: center;"><b>農業青年会議所運営補助金（農政課）</b></p> <p>・特に質問なし。</p> <p style="text-align: center;"><b>地産地消推進協議会交付金（農政課）</b></p> <p>・特に質問なし。</p> <p style="text-align: center;"><b>田んぼアート米づくり体験事業推進協議会補助金（農政課）</b></p> <p>有田委員 ・田んぼアートだが、ギネス記録も認定されて、メディアへの露出も多く行田市の PR 効果は非常に高いと考える。今回、補助金だけで成り立っているような視点になっているので、地元企業を参加させるなどして助成金を募り規模を拡大してみてもどうか。</p> <p>柴崎課長 ・ご指摘のとおり補助金がメインである。そういった中で、田植え、稲刈りの体験の参加料を頂いている。昨年から、協議会の方でポストカードを作成し、一部収益に繋がる販売を開始した。貴重な意見であるので、検討したい。</p> <p style="text-align: center;"><b>行田ブランド米検討委員会補助金（農政課）</b></p> <p>・特に質問なし。</p> <p style="text-align: center;"><b>行田軽トラ朝市実行委員会補助金（農政課）</b></p> <p>吉田委員 ・行田の軽トラ朝市については、今後独立運営を目指していくのか。どういう進め方をしようとしているのか。</p> <p>柴崎課長 ・現在、事務局が農政課にあり、平成 23 年に発足したわけであるが、発足当時はずっと事務局を農政課に持つのではなく、何年か後に徐々に自主運営ができるようにしたいと考えていたと伺っている。職員が行っている分を会員の皆様をお願いして運営を任せていきたいと考えている。</p>
--	---

矢田委員	<p style="text-align: center;"><b>行田在来青大豆商品開発・販売促進協議会補助金（農政課）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行田は米農家をしている方が多く、支援ができるのであれば支援をしていただきたい。</li> <li>・青大豆については、味覚は良好である。食堂でいただいたスープも美味しかったので、十分に PR をしてほしい。観光のためにリーフレットの配布もお願いしたい。</li> </ul>
江黒委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業というのは大変で手間の割に利幅が少ないということは伺っているのですが、こういった補助金は大切であると思われる。実際、青大豆の商品や、ブランド米の商品の売上報告は上がってきているのか。</li> </ul>
柴崎課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数字的なものは、青大豆関連の商品は、各商店で作っているためなかなか把握していないが、イベント等に出店した時には大まかな売上は把握している。</li> </ul>
	<p style="text-align: center;"><b>ほくさい農協行田廃プラスチック収集協議会補助金（農政課）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に質問なし。</li> </ul>
	<p style="text-align: center;"><b>園芸団体振興事業補助金（農政課）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に質問なし。</li> </ul>
秋山会長	<p style="text-align: center;"><b>農政課交付補助金共通</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・守備範囲が広いというのが感想である。</li> <li>・私たちは、農耕民族ですから、農業というのは小さい頃から教育をし、また自分の地域の農産物の重要性の認識というのは大切であると考える。</li> <li>・行政の色々手厚い補助金のほか、もっと農協と連携していくべきと考えるがどうか。</li> </ul>

柴崎課長	<p>・今回の補助金の中では直接はないが、農産物の展示会を農協と市で協力して、年に1度農家が腕によりをかけて作った農産物を出していただいて、審査・品評を行っている。</p> <p>・また、農業祭も連携して開催している。さらに、国の施策で、現在ある農地を、大規模農家に集約していく事業が始まった。この農地の橋渡しは、市が農協と連携しないと進まないことである。</p>
小川委員	<p>・農業青年会議所運営補助金から、園芸団体振興事業補助金まで8つの補助事業があるわけであるが、ほとんど補助金額が、予算の範囲内で補助をしているが、行田在来青大豆商品開発・販売促進協議会補助金と、ほくさい農協行田廃プラスチック収集協議会補助金の2つ以外は予算の範囲内の補助額となっているが、予算が確保できなければ、補助金は交付しないという考えか。予算がなければ、補助金を交付しなくても特に問題がないというような事業なのか。必ず必要な補助金であれば、定額補助若しくは事業に対しての何パーセント等の補助割合が要綱にて定められていると思われる。ここでいう、補助額が予算の範囲内ということになると、さほど重要な補助金にはならないと思われる。必要でなければ予算を付けない、財源に余裕があれば交付するというような考え方もできる。その辺を伺いたい。</p>
柴崎課長	<p>・必要な事業には、必要な補助額を交付できるよう、予算の範囲内という表現で誤解を招かないよう対応してまいりたい。</p>
秋山会長	<p>・田んぼアートの効果があったとあるが、農家の方が潤わないといけませんから、マーケット、つまり市場の中でどういうものが売れるのか、どういう風にしたら売れるのかを、自ら考え自ら行動することが大事であり、行政側がどのように補助金を交付しながら指導していくかということに繋がっていくと思われる。行政側があまり出すぎても</p>

事務局	<p>望ましくないし、出ないのもよくないと思われる。農家の方をある意味で所得の面でも振興するのが必要である。今、農業をやりたいという青年が沢山いるので、農地のバンクなど行政側が農業に関して行っていることを広く全国に発信するなどを行ってほしい。農業問題はどこの市町村も手厚くしているので、都市部における農業の理想として、こういったものがあると発信して行ってほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・以上で本日の議事を終了とする。</li> <li>・次回の会議の日程（平成 28 年 2 月 18 日（木） 午後 1 時 30 分の開催）</li><li>・以上をもって第 4 回補助金等調査委員会を閉会する。</li></ul> <p style="text-align: center;">＜ 閉会 ＞</p>
-----	---